

新
才
選
備

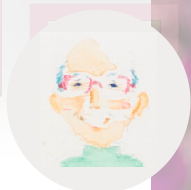


20230831 VOL13 MASEKE ME
The first stage from the beginning:TSuN

新
才
選
集

私たちは
あなたに光を観ようとし、真実を体験し、
それを現そうとします

表紙の写真について思うこと: はじめからある初めての世界



最近のチャレンジは…毎日は大小様々なチャレンジの積み重ねです。

第13回 「2つのわたし、続き」

トソスンヤン ありがとうございます。

今回は、前回の第12回の続きです。

人は初めに「わたし」を生き、次第に「わたしとあなた」となり、次に「みんな」を生きて、やがて「私たち」になっていき、そして「ひとつ」を生きるようになります。

こうした「自分の展開」の根底には「わたし」があり、その「わたし」の本質は良心を核とする自我です。

自我は、何かを対象として、善か悪かの判断をします。

その時、人によって対象とする何かが異なり、

- ①意味や結果などの形
 - ②感情や感性などの響き
- に二分されます。

①の意味や結果などの形を対象に善悪を判断する人は、知の心が優位であり、②の感情や感性などの響きを対象に善悪を判断する人は、情の心が優位です。

例えば、誰かが何かをした時、一生懸命にやってみただけど、結果的にうまくいかなかったとします。それを見た①はダメだと判断し、②の人は良いと判断します。

- ①の人からすれば、どんなに一生懸命にやったとしても、結果が出ていないのだからダメであり、
- ②の人は、結果は出ていないけど、一生懸命にやったからOKなわけです。

さて、①の人が、「わたしとあなた」になっていく時、まずは自分と同じような知の心が優位で、しかも似たような判断基準を持っている人から重なっていきます。やがて、自分とは異なる判断基準の人とも重なっていき、最後によく情の心が優位な人と重なるようになって「みんな」になっていくのです。

②の人の場合は反対で、まずは自分と同じような心の心が優位な人と重なって「わたしとあなた」になり、同じような心の心が優位だけど、感情や感性が異なる人と重なり、さらに知の心が優位な人とも重なるようになって、ようやく「みんな」になっていきます。

もちろん、例外などありますが、概ねこんな感じです。

これからどんどん世界が極化していくと、考え方、感じ方、感性などが自分とは異なる人との接触が減り、似たような人が集まるようになっていきます。

すると、人は「わたし」から「わたしとあなた」、さらに「みんな」へと進む機会を失ってしまいます。

もし、あなたが自身の進化を望むのであれば、積極的に、自分とは考え方や感性が異なる人と重なるようにしていくことが大切です。

トソスンヤン ありがとうございます



最近のチャンレジは…チャレンジはしないな。達成を受け取るだけだよ。

第13回 チケエ (上田 晴美) さんについて

トソスキツマ ありがとうございます。

今回は、チケエ(上田 晴美)さんについてお伝えいたします。



【CHIKE CAFE・講座運営 担当】

CHIKE CAFÉで様々なお菓子を創造しまくり、講座の運営に関しては、ビシッと決めるところを決める。そのようなお仕事をされています。

Q1. チケエさんにとってK-PVTとは

A1.

マ〜 (真実)

マ〜 (現してナンボ)

マ〜 (ギフト)

Q2. チケエさんにとってKIRとは

A2.

devotion

(余談ですが、ちけえの大切にしている本、といっても、友人に預かってもらっているゆえ手元にはないのですが、「ジョイはきれいな水を飲む」という本の中に、この名前の女性が登場します。わしの憧れ。機会があればチェケラ)

チケエさんは、“チケエさん”が目一杯“チケエさん”である。ということ、とても心掛けているように感じます。それは人に尊厳を感じているからで、“チケエさん”が“チケエさん”であろうとしないときは、人から尊厳を奪うことになる。そのように感じているのではないかと思います。トソスケエ!

トソスキツマ ありがとうございます。



最近のチャレンジは… (チャレンジし続けてしばらく経ちますが、、、)車の運転です。

植物から自然知性を学ぶ

ツケオ

第13回 植物の部分と全体から、全体性をみる

トソスツケオ ありがとうございます。

皆さんは、人参というと、人参の根を人参として思い浮かべるとと思います。でも、人参は根だけが人参ではなく、人参の葉もあり、人参の花もあります。

大根も同様で、根っこだけが根ではなく、葉も花も大根です。大根の花を食べると、大根の味がするのですが、大根の花も大根ということを感じます。

このことを知識で考えると、大根の花や根、葉というのは、1=3の部分に相当します。全体というと、根っこから花、葉、茎を含めた全てが大根です。

そして全体性というと、大根の全てが含まれている種だと思えます。

でもこの大根の全体性を考えてみると、アブラナ科という品種の一部が大根です。

そして、アブラナ科というのは、野菜の品種の一部であり、そして更には植物という品種の一部であり、地球という中の一部であり、宇宙の中の一部でもあります。

最後は、光から現れた多様化の現れとしての大根が在るということに気づきます。

ンヤン先生は、部分だけを見るのではなく、全体をみる大切というお話をされます。

大根という根をみて大根について知ったつもりになるのではなく、大根の葉や花や茎などを知ることが、大根というものを本当に知ることになると思えます。

そして、その先の大根はアブラナ科の一種ということで、同じアブラナ科のブロッコリー、キャベツ、カリフラワー、ケール、カブ、ハクサイ、ルッコラ、ワサビ、クレソンなどのアブラナ科の野菜を知ること、大根というものを深く知ることが出来ると思えます。

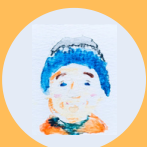
階層構造というのは、このようなことだと思えます。

このことは、人についても同じだと気づきます。

その人の発言や容姿という部分だけではなく、その人を知るということは、その人の全体をみて、全体性をみる大切だと思えます。

他者に光を観ようとすることで、自身の真実が開け、同時に他者の真実を開くことに繋がり、本当の意味で他者の真実を知ることが出来る他者と繋がること出来るのではないかと、人参や大根という野菜を観察することから感じる事が出来ます。

トソスツケオ ありがとうございます。



最近のチャレンジは…【花びら1枚1枚の価値】を唱える

第13回 大三島の神事

トソスワナム
ありがとうございます。

大三島は連日、まだまだ暑い日が続いています。やはり島なのか湿気が多い感じがします。それでも、夜には鈴虫が鳴いていて、秋の気配も感じられます。

前回、大山祇神社の楠の木にまつわるお話を書きました。

今回は、代表的な神事について書いていきます。

日本の大きな神事の目的は、主食である稲の豊作祈願であるとされています。

大山祇神社の境内の一角に田んぼがあります。

春の「お田植祭」と秋の「抜穂祭」に少女たちが出て行事が行われ、その収穫祭の名が「稲刈り」ではなく「抜穂」であることから、鎌などのなかった古代の収穫時の姿をとどめています。

そして、有名な神事として、「一人相撲」があります。

一人の相撲取りが姿の見えない神と力比べをし、1回は人間が勝つけれども、2回は神が勝ち、その年の豊作が約束されるという神事です。姿の見えない神との駆け引きがいかにもおかしくとり行われていて、民族芸能とされるようになり、現在に伝えられています。

大相撲の横綱が締めている「綱」は、神社の拝殿正面に飾られている「シメナワ」であり、

「さがり」も同じであるとされています。このことから相撲の原点が神事であることがわかります。

日本の大きな神事の目的は、主食である稲の豊作祈願であるとされています。

こういった神事を見ていくだけでも、大三島は農業の島であることがわかります。

トソスワナム
ありがとうございます。



第13回 自身の中にもある光

トソスヤリノ ありがとうございます

講座を通して純粋な知識に触れると、「自然知性の光を体現する者」ってどんな感じだろう、と思うことがよくあります。

他者に光を観ようとし、自身の真実を現す者。

期待したり、環境のせいにしてたり、自身の闇を見つめたりという反応を生きるのではなく、自身に向き合い、勇敢に変化を生きる者。

喜んだり怒ったり悲しんだり楽しんだりしながら、そこに同化せず常に進化を求め、愛を生きる者。

ヤリノはいつも孫悟空が浮かびます。

ドラゴンボールの主人公である悟空は、冒険という変化の連続の中で、たくさんの出会いをし、強くなっていきます。彼は漫画の主人公としてはちょっと珍しく、善悪よりも自身の真実を生きることを大切にしているようです。なぜなら彼は敵が生き方を改めると、あっさりと一緒に成長していくことを選ぶからです。過去の言動よりも毎瞬間の創造を生きます。そして、かつての敵に何かを押し付けることもしません。ただ彼らが自身の真実を生きるようになったから、仲間として共にいるのです。続編のドラゴンボールZでは悟空たちのことを「Z戦士」と呼びます。彼らはただ正しい存在なのではなく、自身と向き合い、強くなろうと戦っているから戦士なのです。

悟空だけが使える技に元気玉があります。これを使う時、悟空は「大地よ海よそして生きているすべてのみんな、このオラにほんのちょっとずつだけ元気をわけてくれ」というような宣言をし、集まったエネルギーを敵にぶつけます。これは初めからある達成に目覚め、意図し、自身の効力を使い…という風に創造のプロセスを回しているように感じます。

悟空は敵も含め、他者の存在を認め、あらゆるものに尊厳を与えています。その上で、自身の真実を現すために、修行という準備をし、心を開き、敵と全力で戦います。そして達成を受け取り、より高みを目指します。悟空のおかげで地球の平和は保たれますが、それは彼にとっては一つの形でしかなく、こだわるものではないのです。

この悟空の単純さ、軽さ、明るさに、多くの人が自身の中にもある光を感じ取るのだと思います。

トソスヤリノ ありがとうございます



最近のチャレンジは… 言ってみる

第13回 知識は意識に構築される

トソスワトホ ありがとうございます。

内側における体験をともなわない外側からの学びは、いかに詳細であっても知識にはなりません。すなわち意識に構築されず、こころの活動（推論など）に留まります。

また外側からの学びを伴わない内側の体験は、こころのよろこびが小さいために、ストレスや緊張が浄化されにくく、純粋性が高まりづらく、その結果、成長や進化の大切な原因となりにくいです。すなわち外側からの学びと普遍意識の体験によって、真の知識を得ることで、こころに生じる各種の印象は浄化され、こころの純粋性は増していきます。

トソスワトホ ありがとうございます。



第13回 朝のひと笑い！

トソスナエン
ありがとうございます

さて、今日はどうするかなー。(←毎朝思うのですが)
キオマ食堂の朝は、いつもごきげんで始まるのも限りませんで…
体調に左右されることや、どうしようもなく気分が上がらなかつたり、
なにを作ろうか全く浮かばない朝があったり、
祝福イベントの段取りで頭がいっぱいで気もそぞろ…の日とか、あります。
先日どうしても気分どんよりから抜け出せないでいたのですが、
あることで一気に抜け出すことができました。

ンヤン先生がキオマ通信のマー星人の2号先の連載(?)原稿を、
朝の早い時間にお持ちになられ見せてくださったのですが、
当然ながらそこにはまだ見ぬというか、誰も見たことのないマー星人のようなマー星人でない
ような姿の○○が…

毎回の思いがけないアイデアには度肝を抜かれるのですが、
これまたすごい出してきたー！
思わず爆笑してしまった後には、どんよりがすっかり晴れて覆われていたものが吹き飛ばされて
しまったのです。

朝の一杯のお茶だったり、元気を出すには紫蘇ジュースだとか、
ちょっとした甘いお菓子だったりとか、目覚めのきっかけはそれぞれであろうかと思いき
ますが、
その日の朝のひと笑いで「笑いの効果、って凄いなと感じた出来事であり、
それを生み出すンヤン画伯の偉大さ?と効力&マー星人のキャラの魅力!を感じた朝でした。
創造するってなんて素晴らしいんだろう～

という訳で、次号のマー星人もお楽しみに！

トソスナエン
ありがとうございます



第13回 その13

トソステケエ

ありがとうございます。

先日、ルートラーナの仲間に教わった、今治にある某オサレ古本屋さんを訪ねてみました。瓶入りのジンジャーエールをごくごくいただいたあと、本の並んだお部屋をのぞいてみると、若かりし頃のわしのバイブル「olive」がずらり。すべてが新鮮で、どこに何が載っているか覚えてしまうくらい隅々まで読み込み、小さな記事をたよりにいくつものお店を訪ね、言葉を交わすたのしみを知った頃のことを、懐かしく思い出しました。

自身の中で憧れのカフェというものが、今はもうないお店も含め、いくつかあります。そこで何を飲み食べ、味はどうだったかということよりも、何もしていない空白の時間の方が印象深く、空間や空気を味わっているというのか、そんなものを自身は好み大切に思っていました。よそのお店ゆえ、自分の居場所ではありませんし、憧れゆえの背伸びはあったらろうとはいえ、それも含め、そこにその時間そのままの自分でいられた場所だったのかもしれない。

少し前、友人にチケカフェのことを手紙に書き、その後いただいたお返事には、「いつかチケエが「いつか自分の場所を持ち、誰かを迎えて話をしたい」と話していたことを思い出しました」と書かれてありました。当時心の中で温めていたイメージは、カフェというかアトリエ的な、名前のつかない場所で、今はここで、欣びを広げる菓子をつくり、目の前の方との「わたしとあなた」、一対一の関係でお茶をいれ、時に朗々と歌い、時にやさぐれ、そんな「閉じがチケエ」を笑い飛ばしてくれる仲間がいて、すなっくちけえとして機能し、ということを重ねています。

続く。

トソステケエ

ありがとうございます。



最近のチャレンジは…「チケエ、好きにやんなさい」を本気でやろうとすること。
これからのチャレンジです。

コトハを学び、ミコトを生きる

ワラン

第11回 「嘘をつかない」

トソスワラン
ありがとうございます

皆さん、こんにちは。ワランです。
今回は「コトハを学び、ミコトを生きる」の第11回です。

私たちは子どもの頃から「嘘をついてはいけない」と教わります。嘘をつくことは良くない、嘘をつくとも周りの人から信用されなくなってしまう、などと教わります。オオカミと少年の話に例えられたりもします。

そしてもう少し成長すると、道徳的な側面からも教わります。正直に話すことなど、良心に基づいて行動することの大切さを教わります。

さらに成長し大人になってくると、心の寛容さが増し、あらゆることを大らかに受けとめることができるようになってきます。正直であろうと思わなくても自然に振る舞うことができるようになります。他者を尊重するようになり、そして、他者に光を覗ようとするようになってくるということです。内側の真実（光）に目覚めると、嘘をつくことはほとんどなくなります。

このように「嘘をつかない」ということ一つとっても、心の成長とともにその価値は変化します。生命の本質は成長です。その人の意識のレベルが上がると、生きる世界も変化します。私たちは、コトハを学び、ミコトを生きることによってそれを体験することができるようになっていきます。

トソスワラン
ありがとうございます



最近のチャレンジは…キオマ通信の「コトハを学び、ミコトを生きる」

第13回 季節の終わりに思うこと

トソスキリヲ ありがとうございます

皆さまこんにちは、いかがお過ごしですか？

8月も残りわずかですが、この数日、暑さが急にぶり返していた今治です。

夏が爪痕を残すかのような日差しの中、思い出していたのは、十数年前、朝の散歩で見つけた小鳥のことです。

その小鳥は地面に立ち止まり、まるでリズムをとるかのように、大きく体を揺らしながら呼吸をしていました。こちらが近づいてもおかまいなしで体を揺らす様子が珍しく、しゃがみこんでしばらくの間、小鳥の様子を眺めていました。そのうち出勤時間が近づいてきて、静かにその場を離れましたが、気になって翌日も同じ場所に足を運んでみたら、その小鳥が昨日と同じ姿勢で、パタンと前に倒れて死んでいました。

その時感じたことは、「エネルギーは出し切らないと、死ねないのかも」ということです。

この数日は、「今の自分は素直じゃないから、あの鳥みたいにまっすぐエネルギーを放てない」とモヤモヤしながら冴えない日々を過ごしていますが、そんな中、仲間たちと各地に遠征する大きな祭祀があり、先日まで皆でその準備を進めていました。

当日は、チームメンバーと力を合わせながら祭祀を行うことができ、また、その場にはいないメンバーたちの「達成の証」が次々と目の前に現れて、心の曇りが少しずつ晴れていくようでした。

チーム内ではしおり係になり、表紙には、水面に浮かぶ金魚のイラストを使いました。

しおりの完成後、祭祀の達成に何も関係がない金魚を使ったことを「浅はかだった…」と悔やみ、ますます冴えない気持ちになりましたが、現地で池の響かせをしているとき、ふと目を開けると、色鮮やかな鯉が池の上を横切っていました。

その光景は、まるでしおりの表紙のようでした。

鯉はそのまま静かに視界から消えていき、そのとき目を開かなければきっと鯉を見ることもなく、そしてその鯉の色は、自身が観ていた達成の証の「オレンジと黄色のグラデーション」であり、「冴えないけど今はこれでよいのかも」と少しだけ安心することができたのでした。

「達成を観る」というのは、頭で考えることではないのかもしれないかもしれません。

次回遠征は9月29日、この日のため多くのメンバーがつながりながら祭祀を創造していきます。祭祀はzoomでの参加も可能ですので、k-pvt実習者の皆さまは、ぜひご参加ください。

それでは、次回は約2週間後のマセケのハ、新月の日にお目にかかれますよう。

本号もお読みくださり、まことにありがとうございます。

2023年8月31日、マセケのメ、満月の日に。

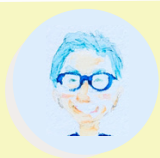
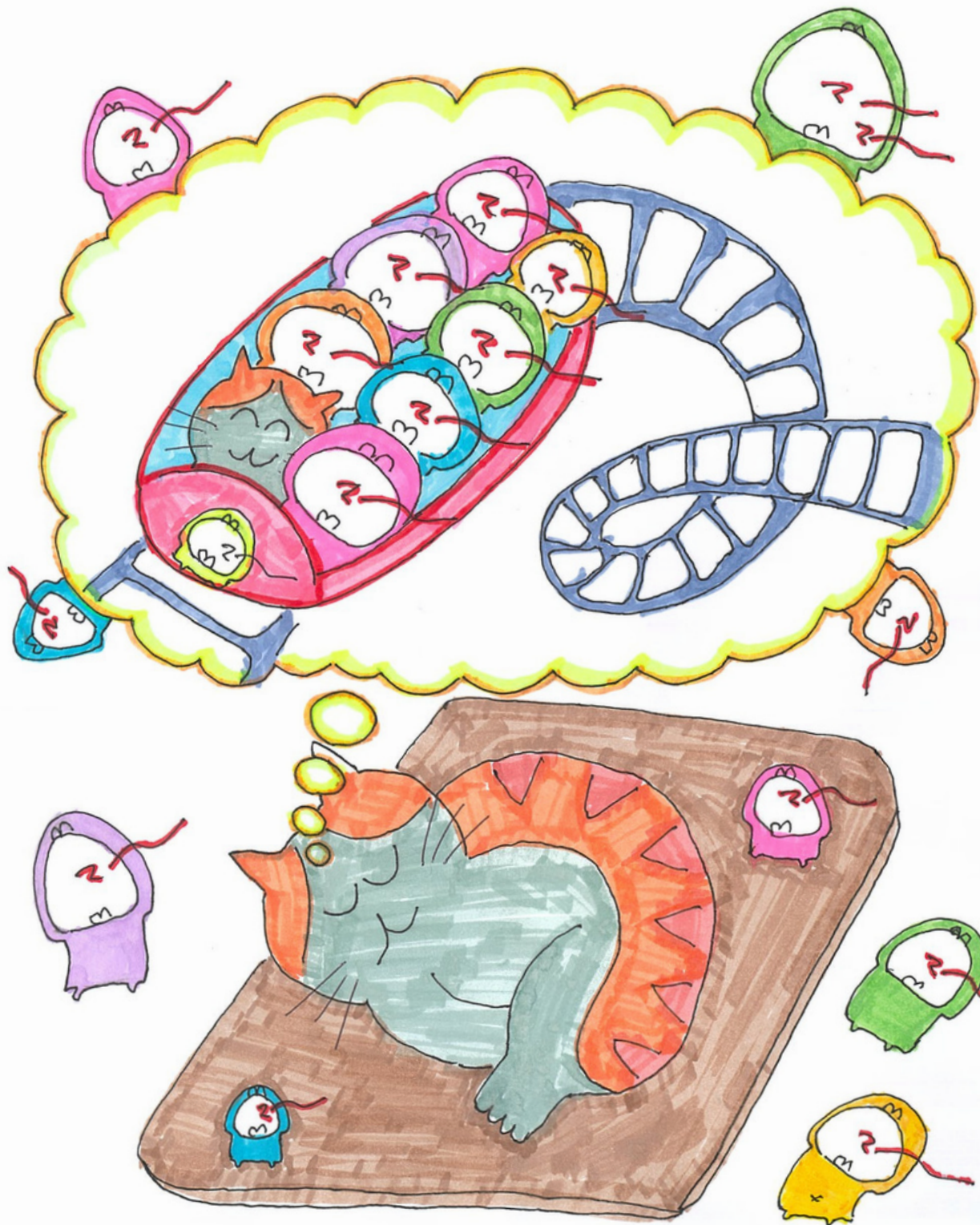
トソスキリヲ ありがとうございます



最近のチャレンジは…画像処理アプリを入手してみました

光の生命体「マ～星人」-7-

マ～は夢の中に入ってマ～マ～遊んでる



夢でもし逢えたら、あっ、昔そんな歌があったな

マ～星人!? と思われた方はこちらへ





KoToHa *Integral Research*